

北アルプス 赤谷尾根～劔岳

山川・栗原

【日時】 2008年5月3日～5日

【メンバー】 栗原L・大田原・山川

劔岳から北に伸びる北方稜線。クラシックな名ルートで、漠然といいなあと思って
いたが、あまり自分で計画を立てるような山域ではなかった。昨年のGWに源次郎尾根か
ら劔岳に登る機会を得て、劔岳が少し身近になり、このルートに目が行った。本当は毛
勝三山から繋げたいところだったが、日程の関係で赤谷尾根から劔岳を踏むルートとな
った。(栗原記)

5/3 GWの渋滞を考慮に入れず夜行バスにしたため、富山到着が予定よりも1時間遅れた。
当然馬場島に着くのも1時間以上遅くなり、初っ端から計画が狂う。ただ、天気の良い
に、さほど不安を抱かずに済んだ。今日の目標は赤谷山、天気もいいので多少残業すれ
ばなんとかなるだろう。

少しだけブナクラ谷の方に車道を回り込み、藪の出ている赤谷尾根の末端付近に取り
付く。下の方はあまり雪がなく、藪こぎになるが、さほど煩くはない。体力を心配して
いた山川さんだが、着実に登ってくる。うん、大丈夫そうだ。

しばらく行くと雪が出始めるが、しっかりとトレースがある。途中、楽しそうに下り



てくるパーティとすれ違った。樹林帯を抜けると、ドドーンと右手前方に劔岳の稜線が見え
てくる。これが「剣見るなら・・・」と詠われる所以か。天気も良く、素晴らしい眺めだ。
景色を見つつ、明日歩く稜線に思いを馳せながら、のんびりと斜面に登る。緩斜面を歩いてい
ると、遙か先の急斜面を大勢の人が登っていくのが見える。さすが、有名ルートだ。そのトレ
ースをたどり、我々も急斜面を

登って赤谷山山頂に着くと、そのパーティの多さに驚く。こんなにもメジャールートとは
思わなかった。片隅に我々もテントを張る。トレースがしっかりと付いていて、出発

が遅くても割りと早く山頂に着いたため、劔岳の雄姿を眺めながら、外でのんびりとティータイム。日焼けしたくない私達は顔を完全武装し、少々怪しいいでたちで優雅なひと時を過ごした。（栗原記）

5/4 4時起床。5時40分、赤谷山を出発。前方に1パーティが先行しているが、他のテントはまだひっそりしている。赤谷山を下ったコルで先頭にでると、北東の斜面をトラバースして山頂を巻く。途中まであったふみ跡は、山頂に向けて引き返しており、大田原さんがしゃりしゃりの雪にトレースを引いていく。夜間もほとんど冷え込むことなく、雪は昨日の夕方そのまま柔らかい。白ハゲ山までは、再び現れたトレースの後をたどりながら、静かな稜線歩きを楽しむ。今年の異様な暑さと連日の雨で、稜線部は黒々と藪と岩が露出している。ところどころトレースを失うが、概ね順調に歩を進める。大窓への下りは、西側のルンゼ(藪とガレ)を下りトラバースした。大窓にあった新しいテント跡で小休憩。ふと顔をあげると、大窓の頭へ2人パーティが藪漕ぎしながら登っている。あの2人組みの泊まった跡のようだ。長い藪の登りである。我慢の登り1ピッチでゆるやかなアップダウンにかわる。池の平山を越え、急な雪壁をダブルアックスで降りると、最後に小窓の手前でシュルンドが現れ10mほど懸垂した。



再び小窓の頭へ長い登りが始まる。さくさくと登っていく栗原さんと大田原さんの背中が遠く感じる。初夏のような陽気に、雪は、お祭りで売っているかき氷のように、ゆるく溶けてしゃりしゃりである。『しろくまくん』のようでおいしい。掬って食べながら、ようやく小窓の頭につく。

小窓尾根から登ってくるパーティが合流し、稜線は渋滞ぎみとなる。三ノ窓への懸垂下降は、30分待ち。今日は三ノ窓に幕営予定だが、栗原さんも大田原さんも待ち時間の間中、池ノ谷ガリーを眺めている。50mのダブルロープで1ピッチ下降。15:00 三ノ窓着。明日は天気も怪しいので、少しでも先へ進もうということで、池ノ谷ガリーへ取り付く。二人のスピードについていけず、後からゆっくりと登る。今日は池ノ谷乗越に泊り…と思いたいが、なんだか嫌な予感がする。乗越にすでに泉州山岳会のツェルトが二張はつてあるのがわかり、さらに先着していた二人の満面の笑顔をみた瞬間、あともう1ピッチだな、と理解した。結局ひとつ先のピークで落ち着くことになった。16:05 本日の



行動終了。天気とトレースのおかげで、快適に進めたが、元気な二人に着いて行けず、なかなかしんどい一日だった。（山川記）

5/5 今日はいよいよ劔岳山頂を踏む日だ。残念ながら天気は今ひとつで、ガスがかかっている。午後から天気が悪化する見込みなので、悪くならないうちにと早朝に出発する。40分ほどで山頂に着いた。流石に山頂にはまだ誰もおらず、3人で山頂を独り占めした。せっかくなのでのんびりしたいところだが、怪しい空模様に急き立てられるように山頂を後にする。去年も通ったカニの横ばいを慎重に通り過ぎ、平蔵谷からは思い切ってシリセードで一気に下る。楽しくもあったが、これでビショビショになってしまった。剣沢は去年と違ってほとんどデブリも見受けられなかった。雪もほどほど締まっており、歩きやすい。ハシゴ谷乗越は去年と同じルンゼから登るが、大田原さんがずっと先頭でラッセルしてくれた。追いついたら替わろうかと思ったが、追いつけそうになったのが最後の10歩ほどだったため、追いつこうとするのをあきらめた……。去年よりも歩きやすい黒部川沿いをポクポク歩き、ダムの手前で半分橋の壊れた川を渡渉、最後の難関の黒部ダムへの急な斜面を登り切り、雨に捕まる一步手前でダムのトンネルに駆け込んだ。ちょうどバスの時間だったので、黒部ダムの観光もせずにバスに乗り込んでしまったが、黒部ダムが初めての山川さんにはちょっと申し訳なかった。

今回、トレースもしっかりしており、当初予定の2泊3日で駆け抜けたが、まさに「駆け抜けた」という感じになってしまった。人が多く、トレースがバッチリ付いており、それだけに楽に抜けられたが、少し物足りなく、少し寂しい。確かに美しく素晴らしいルートではあるけれど、たとえ過去に人の通ったトレースをたどるとしても、もう少しだけ「自分達でトレースを刻んできたよ」と思えるような山行をしたいものだ。（栗原記）

【行程】 5/3 馬場島荘(9:10)～赤谷尾根末端(9:40/9:50)～赤谷山BP(15:35)

5/4 BP(4:40)～大窓(6:45)～大窓ノ頭(8:00)～池ノ平山(9:15)～小窓(11:05)～三ノ窓懸垂待ち(12:55/13:35)～三ノ窓(14:00)～池ノ谷乗越(14:40)～BP(15:05)

5/5 BP(4:40)～劔岳(5:15/5:25)～平蔵のコル(5:55)～平蔵谷出合(6:45)～ハシゴ谷乗越(8:35/50)～内蔵助谷出合(10:15)～黒四ダム下(10:55)～トロリーバス乗り場(11:40)

【地図】 劔岳・十字峡・黒部湖